

1988年 → 1998年 → 2008年
3時点家族調査に見る「夫婦関係20年変化」

「夫婦一緒の時間を充実させたい」 20年で夫婦逆転

夫上昇 (30.6% → 39.3%)、妻下降 (35.2% → 26.2%)

- 「結婚指輪をいつもしている」夫 15.8% → 34.0%、妻 43.7 → 38.8%。まもなく夫婦逆転か。
- 「どんなことがあっても離婚しない方がいい」夫 68.4% → 64.2%、妻 59.7% → 39.7% 大幅減少。

博報堂生活総合研究所は、日本の家族の現状とその行く末を見極めることを目的に、1988年より10年ごとに、家族に関するアンケートを同一質問で実施し、日本の家族について研究を重ねてまいりました。

この度、2008年6月に実施した「家族調査2008」の結果がまとまりましたので、この調査の中から、11月22日《いい夫婦の日》を前に、日本の夫婦の“今”を反映した分析結果を発表いたします。

「夫婦関係20年変化」5つのポイント

- 1 夫婦の時間** “今一番充実させたい時間”で「夫婦一緒の時間」と答えた夫は上昇、妻は下降。20年で夫婦逆転という結果に。
- 2 夫婦の会話** 20年間で「日々の家計の話」が増加、「将来の話」は減少。今のことで精一杯、未来を話しあう余裕はない。また、けんかをする夫婦は37.6% → 51.3%に増加。原因は「お金のこと」が急増した。
- 3 夫婦間での呼び方** パパ・ママなど役割で呼ぶ人は減少、名前・愛称で呼び合う夫婦が増加中。個人として向かい合う夫婦へ。
- 4 夫の家事・育児意識** 夫の家事・育児への参加意識は、20年間で2倍近くまで増加した。また、日常の夫の家事参加も全ての項目で大幅に増大している。しかし、妻の願いは、夫の意識よりも強い。
- 5 理想の夫婦像** 現実の夫婦像も、理想の夫婦像も、夫・妻とも「友達夫婦」が1位に。しかし、夫にとっては、現実の夫婦像は、「友達夫婦」と「カカア天下」が拮抗。夫の3割近くは、理想に「亭主関白」をあげる。

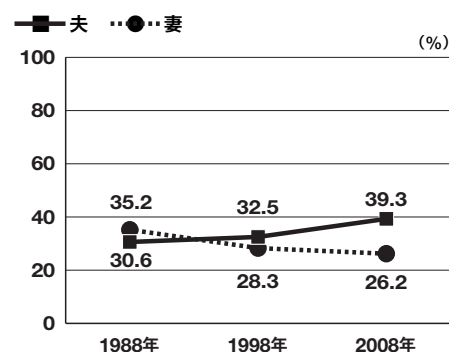
1 夫婦の時間

「夫婦一緒に時間を充実させたい」20年で夫婦逆転。夫上昇(30.6% → 39.3%)、妻下降(35.2% → 26.2%)。
 “今一番充実させたい時間”において、20年前は「夫婦一緒に時間」と考えたのは、夫より妻のほうが多かったのに対し、2008年では、妻26.2%に対して夫39.3%と、夫が大幅に上回る結果となりました。また、妻においては、「自分のプライベートな時間」を今一番充実させたいと答えており、20年間で10.3ポイントも伸びています。

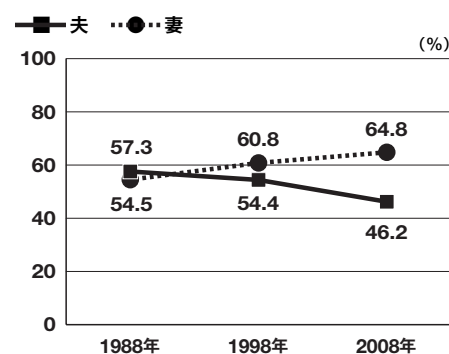
Q あなたが今一番充実させたい時間はどのような時間でしょうか。
 次の中から2つまで選んでください。

		(%)			
		1988	1998	2008	20年変化
自分のプライベートな時間	夫	57.3	54.4	46.2	-11.1
	妻	54.5	60.8	64.8	+10.3
家族一緒に時間	夫	40.3	43.8	55.7	+15.4
	妻	41.4	40.8	50.3	+8.9
夫婦一緒に時間	夫	30.6	32.5	39.3	+8.7
	妻	35.2	28.3	26.2	-9.0
子供と一緒に時間	夫	15.9	11.7	21.0	+5.1
	妻	12.7	11.5	16.5	+3.8
親しい友人と一緒に時間	夫	10.8	8.8	7.0	-3.8
	妻	17.7	22.9	20.3	+2.6
仕事の時間	夫	19.9	17.4	19.5	-0.4
	妻	5.7	5.8	5.7	0
家事の時間	夫	0.3	0.2	0.7	+0.4
	妻	7.8	3.2	5.2	-2.6
自分の親と一緒に時間	夫	2.0	1.1	2.3	+0.3
	妻	4.3	3.8	5.2	+0.9

夫婦一緒に時間



自分のプライベートな時間



2 夫婦の会話

20年で増えたのは「妻の仕事や職場のこと」や「日々の家計のこと」。

減ったのは「将来の夢」「老後のこと」。今のことで精一杯。未来のことを話し合う余裕はない。

夫婦の会話で話題になるのは、今も昔も「子供のこと」が1位。これは、20年間で8.1ポイント増加しています。また、20年で大きく増加したのは、「妻の仕事や職場のこと」が10.7ポイント、「日々の家計のこと」が10.0ポイント。一方で、減少したのが、「将来の夢」で-11.7ポイント、「夫婦の老後のこと」が-9.2ポイントとなりました。不況の社会を反映しているのか、日々の生活で精一杯、未来のことを話し合う余裕がなくなった現代の夫婦像がうかがえます。

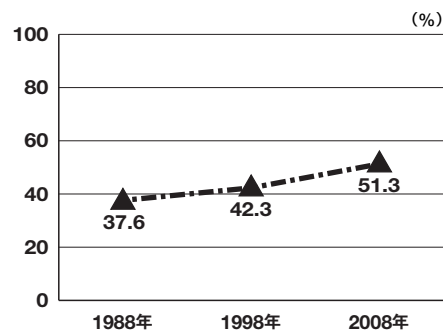
夫婦げんかは増加の一途（37.6% → 51.3%）。原因は「お金のこと」が急増（27.4% → 35.5%）。

そんな中、夫婦げんかをする夫婦は、右肩上がりが増加傾向です。2008年では「夫婦げんかをする」（よくする＋時々する）と答えた世帯は過半数に上り、20年で13.7ポイント増加しました。げんかの原因で、20年間で大きく増減があったのは、「お金のこと」と「子供のこと」。「お金のこと」は8.1ポイント増加し2位に躍り出ました。一方、1位の「子供のこと」は-9.8ポイントで減少傾向にあります。ここにも、経済的安定が欲しい現代の夫婦像が見えてきます。

Q 普段どのようなことが話題になりますか？
あてはまるものをいくつかもお選びください。

	（%）			
	1988	1998	2008	20年変化
子供のこと	80.1	84.5	88.2	+8.1
社会的な出来事やニュースのこと	57.5	62.4	64.2	+6.7
夫の仕事や職場のこと	53.6	57.7	60.5	+6.9
大きな買い物やレジャーのこと	46.8	52.3	49.0	+2.2
近所づきあいのこと	37.4	38.4	34.0	-3.4
日常の家事のこと	34.8	36.6	33.2	-1.6
妻の友人のこと	26.5	30.7	31.3	+4.8
妻の仕事や職場のこと	20.5	24.8	31.2	+10.7
日々の家計のこと	22.3	28.4	32.3	+10.0
夫婦のお互いの趣味のこと	28.9	30.0	29.7	+0.8
親戚のこと	30.1	28.2	22.3	-7.8
夫の友人のこと	24.5	24.3	21.5	-3.0
夫婦の老後のこと	24.4	20.8	15.2	-9.2
将来の夢	22.9	15.8	11.2	-11.7
親の扶養のこと	10.2	13.3	11.2	+1.0
家族の試算形成や分与のこと	6.8	5.0	6.8	0

夫婦げんかをする



Q 夫婦げんかをするとしたら、げんかの原因はどのようなことが多いでしょうか。あてはまるものをいくつかもお選びください。

	（%）			
	1988	1998	2008	20年変化
子供のこと	58.1	46.6	48.3	-9.8
お金のこと	27.4	27.8	35.5	+8.1
夫のこと	28.0	29.6	33.2	+5.2
家事のこと	20.9	22.4	20.3	-0.6
親のこと	17.0	19.2	16.8	-0.2
妻のこと	18.6	14.7	14.7	-3.9
近所づきあいのこと	3.4	2.3	1.8	-1.6

3 夫婦間での呼び方

個人として向かい合う夫婦へ。役割で呼ぶ人は減少、名前・愛称で呼び合う夫婦が増加中。

「お父さん、お母さん」などと、役割で呼ぶ人は20年で減少傾向。特に妻では、「パパ、お父さん」などと呼ぶ人は、20年で20.7ポイントも減少しました。また、夫では「おい」「ちょっと」などの呼びかけが11.9ポイント減少しています。一方、名前で呼び合う人は増加。個人として向かい合う夫婦へ変化してきているのではないのでしょうか。

Q お宅では普段ご家族の方を呼びかける際、主に相手の方をどのように呼んでいらっしゃいますか。あてはまるものをひとつお選びください。

《夫が妻を呼ぶとき》

	(%)			
	1988	1998	2008	20年変化
「ママ、お母さん、お母ちゃん」と呼ぶ	48.2	51.1	42.7	-5.5
名前を呼び捨て	19.7	17.2	21.8	+2.1
名前に「ちゃん、くん、さん」をつけて呼ぶ	3.4	6.8	10.2	+6.8
「おい」「ちょっと」のような呼びかけ	22.7	16.4	10.8	-11.9
ニックネーム、愛称で呼ぶ	4.5	6.7	10.7	+6.2

《妻が夫を呼ぶとき》

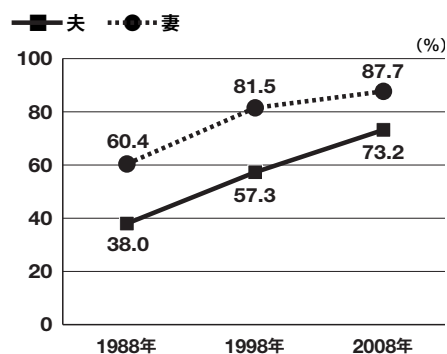
	(%)			
	1988	1998	2008	20年変化
「パパ、お父さん、お父ちゃん」と呼ぶ	75.2	67.6	54.5	-20.7
名前を呼び捨て	2.7	2.8	6.8	+4.1
名前に「ちゃん、くん、さん」をつけて呼ぶ	9.9	13.2	19.0	+9.1
「ねえ」「ちょっと」のような呼びかけ	2.7	6.6	4.2	+1.5
ニックネーム、愛称で呼ぶ	4.7	7.3	12.3	+7.6

4 夫の家事・育児意識

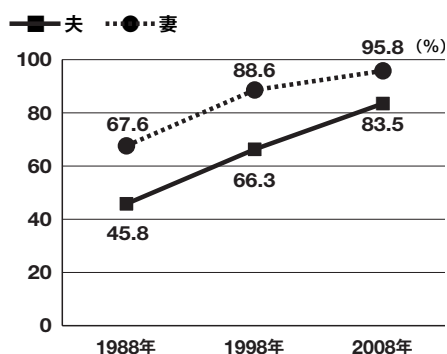
夫の家事・育児への参加意識は、20年間で2倍近くまで増加。しかし、妻の願いはもっと強い。

20年間で夫の家事・育児への参加意識は大きく変化しました。「夫も家事を分担するほうがよい」と答えた夫は、1988年38.0%→2008年73.2%の35.2ポイント増、「夫も育児を分担するほうがよい」は、1988年45.8%→2008年83.5%で37.7ポイント増と、それぞれ2倍近くまで上昇しました。しかし、その一方、妻は常に夫を上回る数字で伸びています。夫の日常の家事への参加は、ほぼすべての項目で大幅に増加しており、夫のがんばりはわかるものの、妻からすれば、家事も育児ももっとやって欲しいというのが本音のようです。

夫も家事を分担する方が良いと思う



夫も育児を分担する方が良いと思う



Q 日常の次のような事柄について、ご主人は普段どの程度参加していらっしゃいますか？
(※よくある+時々あるの小計)

	20年変化 (%)			
	1988	1998	2008	20年変化
家の戸締り	43.2	52.4	65.6	+22.4
年末の大掃除	48.2	48.7	53.8	+5.6
食料品の買い物	30.3	40.4	48.1	+17.8
ごみ出し	19.7	29.3	38.5	+18.8
風呂場の掃除	14.4	25.3	32.5	+18.1
食事の後片付け	11.9	18.6	27.9	+16.0
ふとんの上げ下ろし	27.6	30.2	26.8	-0.8
部屋の掃除	15.2	18.1	23.0	+7.8
食事のしたく	13.4	18.1	22.8	+9.4
町内会などへの出席	15.2	15.0	18.1	+2.9
ふとん干し	16.3	15.0	17.6	+1.3
洗濯	7.9	8.2	14.0	+6.1

5 理想の夫婦像

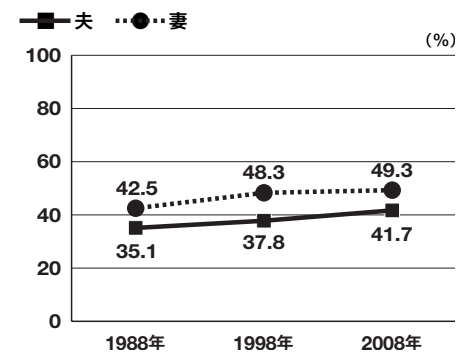
夫婦とも、理想も現実も「友達夫婦」が1位に。

現実の夫婦像も、理想の夫婦像も、夫・妻とも「友達夫婦」が1位となりました。しかし、夫にとって現実の夫婦像は、「友達夫婦」と「カカア天下」が拮抗。そして、夫の3割近くは、理想に「亭主関白」をあげています。また、「結婚指輪をいつもしている」人は20年前は夫15.8%・妻43.7%で、妻が倍以上の差をつけていましたが、2008年では、夫の増加、妻の減少でほぼ同等レベルまで接近し、まもなく夫婦逆転するのではと思われる勢いです。「どんなことがあっても離婚しないほうが良い」と答えた人は、夫は20年間ともに6割以上を保っているのに対して、妻は59.7% → 39.7%と20.0ポイント減少し、夫婦間の意識に20ポイント以上の大きな差が生じました。20年前は夫婦の意識レベルがほぼ同等であった「妻が寝込んだら、夫は会社を休んで家事をするほうが良い」も、夫36.0% → 50.7%、妻36.5% → 31.7%で、20年で20ポイント近くの差が生じました。夫の気持ちは家庭に向かっているのに、妻はそれに対し答えようとはしていないようです。

Q 現実の夫婦像

		20年変化 (%)			
		1988	1998	2008	20年変化
亭主関白	夫	37.3	27.5	17.8	-19.5
	妻	39.9	28.6	24.7	-15.2
友達夫婦	夫	35.1	37.8	41.7	+6.6
	妻	42.5	48.3	49.3	+6.8
カカア天下	夫	25.6	34.8	40.2	+14.6
	妻	15.8	22.8	25.2	+9.4

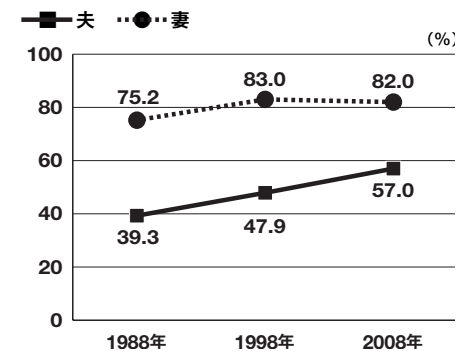
現実の夫婦像は「友達夫婦」



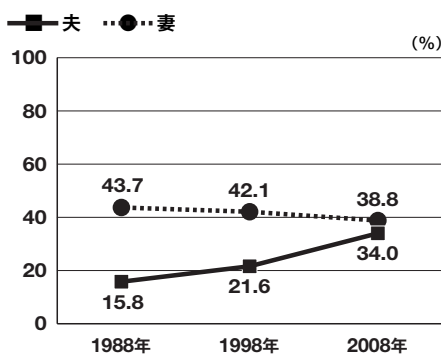
Q 理想の夫婦像

		20年変化 (%)			
		1988	1998	2008	20年変化
亭主関白	夫	50.2	37.4	27.8	-22.4
	妻	15.3	8.0	6.3	-9.0
友達夫婦	夫	39.3	47.9	57.0	+17.7
	妻	75.2	83.0	82.0	+6.8
カカア天下	夫	8.5	14.7	14.8	+6.3
	妻	7.6	8.9	11.2	+3.6

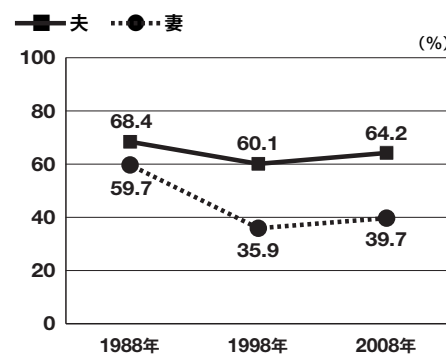
理想の夫婦像は「友達夫婦」



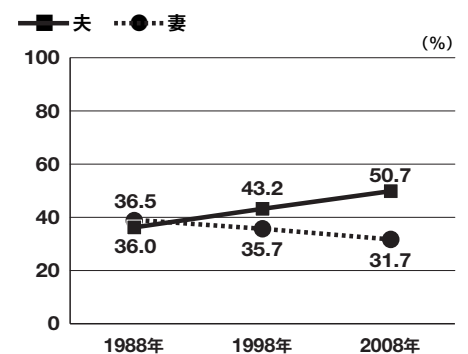
結婚指輪をいつもしている



夫婦はどんなことがあっても離婚しないほうが良い



妻が寝込んだら、夫は会社を休んで家事をするほうが良い



調査設計

■ 調査地域 首都 40km 圏（東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県）

■ 調査時期 2008 年 6 月 12 日～7 月 7 日
1998 年 1 月 8 日～2 月 2 日
1988 年 8 月 3 日～8 月 22 日

■ 調査方法 訪問留置自記入法

■ 調査対象 妻の年齢が 20 歳～59 歳まで、夫婦が同居しているサラリーマン世帯
※対象条件は、夫がサラリーマンであること。子供の有無は問わない。

■ サンプル数

調査年度	妻 20～29 歳	妻 30～39 歳	妻 40～49 歳	妻 50～59 歳	サンプル数
2008 年	57 世帯	208 世帯	173 世帯	162 世帯	600 世帯
1998 年	146 世帯	323 世帯	422 世帯	309 世帯	1,200 世帯
1988 年	149 世帯	446 世帯	366 世帯	223 世帯	1,185 世帯 ※

※不明 1 世帯